OISO MUNICIPAL MUSEUM

Report リポート

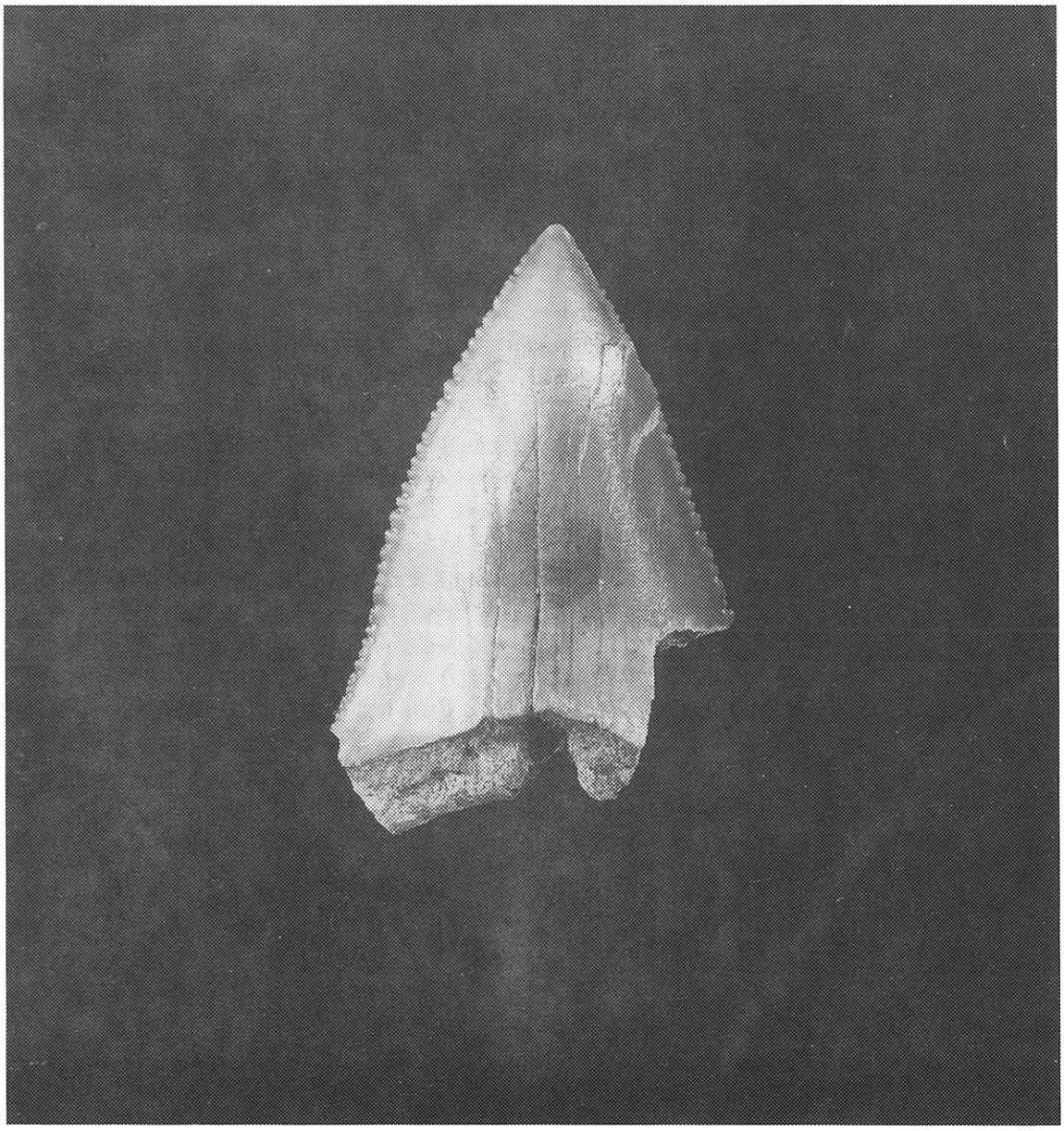
大磯町郷土資料館だより

1994・9・30

10

もくじ

◇特別展・企画展報告 ② 2
◇秋季特別展「一襤褸一紅絹からのメッセージ／西相模の仕事着」 4
◇自然系資料の受入（貝標本を中心に） 5
◇トピックス／行事案内／資料の受入 6



特別展・企画展の記録　②

大磯町郷土資料館は、昭和63年10月に開館してから今年で６年めを迎えます。例年、特別展を年１回、企画展を年３回程度開催しており、本年度の秋季特別展「－襤褸　－紅絹からのメッセージ」で26回（特別展６回，企画展20回）を数えます。ここで、Report－郷土資料館だより１－（平成３年６月15日発行）に引き続き今まで開催した特別展・企画展を振り返ってみたいと思います。

▼ 企画展

『なつかしの風景Ⅰ　海と海水浴場』

平成３年７月21日～８月31日

海水浴場をもつリゾートとして名を馳せた大磯。明治以降、大磯のイメージは、海または海水浴場と定着していった。この企画展では、明治から昭和にかけての写真資料をもとに当時の海水浴の様子を顧みた。

▼ 開館３周年記念特別展

『大磯と吉田 茂』

平成３年10月13日～11月10日

政治家として活躍する一方で、大磯の自然や動植物をこよなく愛した、氏の人柄や業績を偲び、ゆかりの品々を展示。会期中に立教大学教授 北岡伸一氏 を迎え「政治家としての吉田の業績」と題した講演会を開催した。

▼ 企画展

『相模湾の漁船と船大工』

平成４年３月１日～４月５日

大磯は、相模湾のほぼ中央に位置し、古代からそこに住む人々は海と深いかかわりを持ちながら生活をしてきた。この企画展では、和船の建造行程、船大工の技術、他に海にまつわる話などをまじえて相模湾の漁業に迫った。

▼ 企画展

『なつかしの風景Ⅱ　家と町並み』

平成４年７月26日～９月６日

明治から昭和にかけての写真資料をもとに旅館、別荘、大磯の町並みを回顧し、移り行く生活環境とそれに伴う古建築物の忘失を考えた。

▼ 特別展

『相模湾の動物展』

平成４年10月10日～11月22日

黒潮のめぐみによって海産の生物が豊富な相模湾。この特別展では、相模湾に生息する動物に焦点をあて「環境による動物相の違い」「大磯海岸と照ヶ崎の自然」「大磯周辺の海で見られる魚や貝などのミニ水族館」の３点を柱に展示を構成。会期中に野性水族繁殖センターの廣崎芳次氏を迎えて「相模湾の動物について」と題した講演会を開催した。

▼企画展

『湘南の考古資料展』

平成５年３月６日～４月４日

近年の発掘調査により湘南の各所で縄文から近現代の歴史をひもとく貴重な遺物が発見されている。この企画展では、近年得られた資料をもとに歴史的な新知見を紹介した。

▼ 企画展

『-館収蔵品による- 大磯ゆかりの人々の逸品　２』

平成５年４月27日～６月20日

明治18年の海水浴場開設以降、東京近郊のリゾート地としてその名を知られた大磯は、避暑避寒あるいは療養に賑わいを見せた。各界の著名人の別荘も多く、ゆかりの品々の一部は、現在、郷土資料館に収蔵されている。この企画展では、それら著名人のゆかりの品々とともに、地元に生まれ育ち、郷土の発展に先駆的な役割を果たした方々にまつわる逸品を紹介した。

▼ 企画展

『なつかしの風景Ⅲ　史跡と名勝』

平成５年７月25日～９月５日

「大磯八景」に象徴される風光明媚な大磯の景観と数々の史跡を絵はがきや古写真をもとに紹介。生活環境の変化にともない失われつつある大磯の景観について考えた。

▼ 開館５周年記念特別展

『初代 竹春展』

平成５年10月17日～11月21日

陶芸活動の数年間を大磯で過ごし、数々の中国陶器祥瑞を遺した初代 川瀬竹春。 中国陶器祥瑞とともに

氏の功績を紹介。会期中に国立博物館陶磁室長 矢部良明氏を迎え「初代 川瀬竹春と中国陶器」と題した講演会を開催した。

▼ 企画展
『新春資料展』
平成６年１月23日～２月27日

郷土資料館では、郷土の文化、芸術に関する資料を積極的に購入している。この企画展では、近年購入した資料のうち江戸、明治の大磯の景観をあらわしている錦絵、大磯にかかわりある人物由来の陶器、掛け軸等を紹介した。

▼ 企画展
『雛人形展』
平成６年３月３日～４月３日

日本で広く一般に伝えられている雛祭り。日本で最もよく知られている行事であるが、その様子は各地で様々である。この企画展では、江戸末期から昭和初期の大磯周辺で飾られていた雛人形を通して大磯古来の雛祭りの様子を顧みた。

▼ 企画展
『雲の画家 山本瑛幾遺作展』
平成６年５月５日～６月12日

大磯に住み多くの作品を遺した山本瑛幾。郷土資料館に寄贈された作品を中心に氏の芸術活動を紹介した。

▼ 企画展
『湘南の貝化石』
平成６年７月17日～９月４日

湘南各所で採集される化石。この企画展では、貝の化石にスポットをあて貝の生態学的な特徴から太古の湘南地区の自然史について考えた。

なお、当館では上記の特別展、企画展の図録をはじめ展示案内や絵はがき、文化財調査報告書等の図書を頒布しております。詳しくは事務室におたずね下さい。

▼ 特別展

▼ 企画展

写真は、開催した特別展、企画展のリーフレット、図録の表紙です。

秋季特別展

「ー襤褸ー　紅絹からのメッセージ／西相模の仕事着　」

大磯町郷土資料館では、平成６年10月16日から11月20日まで、平成６年度秋季特別展として「ー襤褸ー紅絹からのメッセージ／西相模の仕事着」を開催いたします。

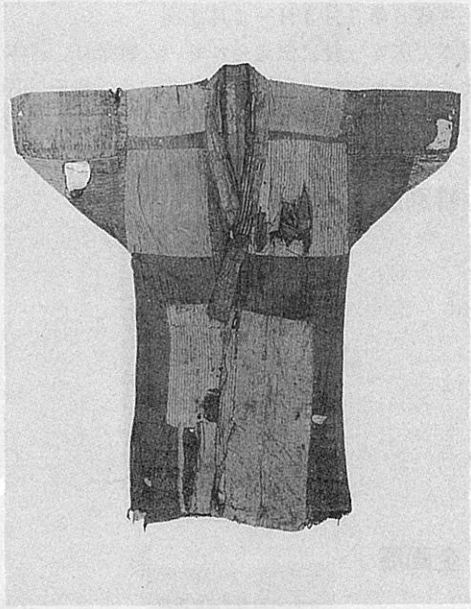
すがたかたちを変え、使い古された襤褸（ぼろ）があります。それらは、さまざまな時代や暮らしなど、自らの履歴を私たちに語りかけてくれます。今回の特別展では、家族や自分の記憶を呼び起こす古い着物や繕いの痕、継ぎのあたった布との対話の中から生まれた前田順子さん（二宮町在住）のキルト作品を展示し、利便ばかりを追い求めている現代生活を見直そうと思います。また、西相模に遺されている仕事着を集成し民俗的な地域性を探るとともに、機能的な素材の優しさや形態の美しさにも注目していきます。

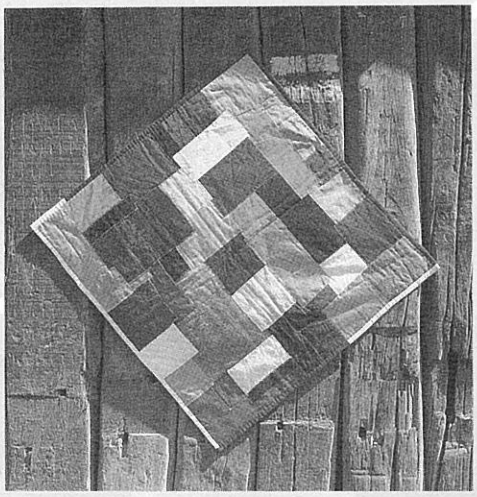
なお、会期中には、秋田民俗学会副会長・日浅治枝子氏の「野良着の用と美」の記念講演会を開催いたします。ふるってご参加ください。

紅絹からのメッセージ

繕いという手仕事が私たちの暮らしから消えて久しい。暮らしのありようが、めまぐるしく変わり、衣、食、住、どれをとっても一世代まえの日常さえ思い出すのが難しいほどである。便利な暮らしになった反面、生活文化として生まれてきたものが、あっというまに失われてしまった。

襤褸といってしまうにはあまりにも美しく、力強くちょっぴり悲しい布たち、それを今一度見直してみたい。





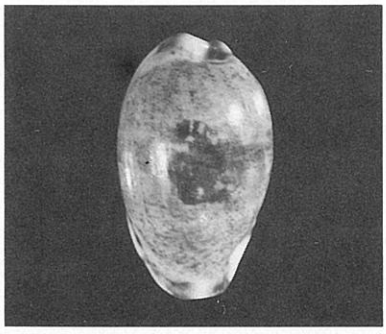
西相模の仕事着

先頃、若い人たちの間で、服を無理やり引き裂いて穴をあけたり、擦り切れてもいないのにあて布をすることが流行った。他人より目立たせることが、その最大の理由らしい。現在の衣服は、素材、デザイン、用途、どれをとっても多種多様であるが、量産されていることに不満があるのだろう。しかし、そんなことをしなくても、昔はみんな個性的だった。形や柄、色の種類は少なくとも使い込んだ布を当たり前のように再利用し、繕い、継ぎあてていくと、それらはやがて個性と美しさを持つようになる。

自然系資料の受入（貝標本を中心に）

大磯町では、郷土資料館開館前にすでに図書館の２階に郷土資料研究室を設置して郷土の文化、自然に関する資料を収集してきた。収集に際しては、寄贈も多く、その中には人文科学、自然科学の学術的価値の高い資料も多く含まれている。自然系資料で特に多いものは、貝の標本である。収集家の中では、昆虫、植物とともに大変よく収集されてきたものであり、現在でも収集家の数は多い。現在、資料館に保存してある自然系の資料のうちで最も数の多いものは、昆虫または貝であると考えられる。ここでは、郷土資料館に寄贈された貝の標本について述べていくこととする。

貝の標本は、昭和59年以降、５回の寄贈を受けおり、それらの資料は、すでに350種2400点にのぼる。寄贈された標本で興味深いのは、それらが特徴的にみて２種類に分けられることである。一つは、採集地域を限定したものであり、もう一つは、地域にこだわらず収集したものである。前者のものでは、大磯周辺、七里ケ浜など採集地域を限定して収集されているものがあり、それらは採集地域に生息している貝の種類、それぞれの貝の割合を非常によく表している。対照的に後者では、長年収集活動をされた成果により相模湾沿岸に生息するものはもとより日本でも南海に生息するものや赤道近くの国々にしか生息しないものまで収集されている。前者のもので多いものは、ニナ目、バイ目のものでその中でも特に目につくものはニナ目のタカラガイ科のものである。オミナエシダカラガイ、ハナマルユキダカラガイは、ともに100点を越え、メダカラガイについては280点を越える。これらのタカラガイは、現在の相模湾にも非常に多く、近年、相模湾周辺によって収集されたことによりこの結果が生じたと考えられる。また、標本として保存されている貝は表面があらわれた状態になっているものが多く、磯に打ち上げられたものを中心に採集したことが考えられる。

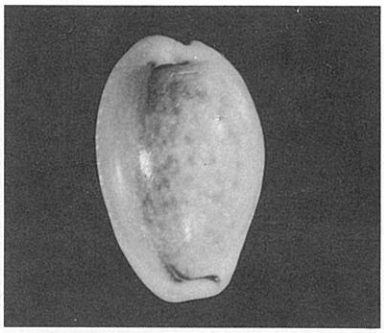


メダカラガイ

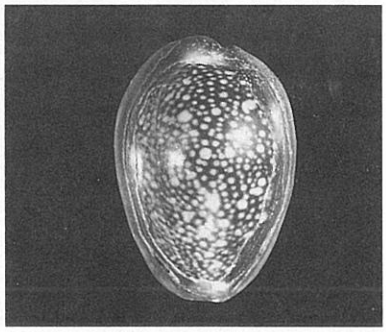
昨今、海水の汚染や漁港の改築により相模湾に生息する貝は、非常に変わったようである。どこの浜辺でもかつては、よく見られた種が最近ではいなくなってしまい、汚染に強い種しか見られなくなったという状況が表れている。郷土資料館での収集は、その時代時代における生物の保存とともに移り行く自然環境の指針として活用されるようにと考えている。

後記として、寄贈により得られた資料は、今後の展示、調査研究等に活用していきたい。

（当館 北水慶一）



オミナエシダカラガイ



ハナマルユキダカラガイ

表紙写真

ホホジロザメの歯

大磯町西小磯の海岸に見られる砂浜から浮き上がった岩々は、大磯層の路頭です。大磯層は、今から約600～500万年前に堆積した地層であると考えられています。表紙写真のサメの歯は、この地層から産出したものです。

【トピックス】

◇ こども歴史教室

8月2日(火)、3日(水)こども歴史教室を行いまいした。本年度のこども歴史教室は、夏休み期間中に企画展「湘南の貝化石」が開会されていたこともあり、「化石でみる大磯の自然史」というテーマで化石をあつかった教室を実施しました。こども歴史教室初日は、東京都立大学理学部助教授の菊地隆男先生を迎え「関東平野の大地のおいたち」をテーマとしたお話しを伺い、2日目、参加者に化石が含まれているブロックを渡し、その中の化石の採集、クリーニングを行いました。内容としては、若干難しかったように思われましたが、参加者が皆、熱心に作業を行っていたのが印象的でした。参加者の中には、今回採集した化石を夏休みの宿題の自由研究にと言うような声も聞かれました。

◇博物館実習

平成6年度の博物館実習は、6大学から15名の実習生を受け入れました。本年度の博物館実習は、実習の日程を2回に分けて行いました。前期日程は、6月21日から6月26日、1大学から6名が実習を行い、後期日程は、9月6日から9月17日、6大学から9名が実習を行いました。

実習の内容は、前期日程では、博物館活動の概要の講義、町内文化財見学、資料の梱包作業、資料館教育普及事業のパンフレット作成を行い、後期日程では、博物館活動の概要の講義、町内文化財見学、資料の梱包作業、各専門分野の資料整理ほか、常設展示室の一部展示替えを行いました。例年行っている常設展示室の展示替えですが、本年度は、冬のくらし－暖を求めて－というテーマで、冬の生活の様子及び当時使用されていた暖房器具の数々を展示しています。この展示は、来年度の9月の博物館実習まで1年間展示する予定です。

【行事案内】

▼特別展記念講演会

10月23日（日）午後1時30分～3時

「野良着の用と美」

講師：秋田民俗学会　日浅治枝子氏

「紅絹からのメッセージ」

作品解説：前田順子氏

▼自然観察会（小、中学生　30名）

木の実と落ち葉のいろいろ

12月10日　午前9時30分～11時30分

『落ち葉、木の実を観察しよう』

12月11日　午前9時30分～11時30分

『落ち葉、木の実であそぼう』

【資料の受入】

（寄　贈）　ご協力ありがとうございました。

高　麗	小幡　昌宏氏	衣服他
高　麗	田端　裕氏	ユリカモメ
高　麗	片野　直三氏	選別機他
大　磯	飯田　福信氏	衣服他
大　磯	田口　長次氏	ハンテン他
大　磯	尾崎　芳治氏	アミジラスの枠
大　磯	真間　磯八氏	木遣師の着物
東小磯	杉山　熙子氏	大皿他
西小磯	大内　満氏	五輪塔(水輪)
西小磯	遠藤　信成氏	看板他
西小磯	仲川　英夫氏	太鼓
国府本郷	高橋　隆助氏	レコード
国府本郷	添田　喜一氏	チカライシ
国府本郷	加藤　登思枝氏	タビの型紙
国府新宿	杉山　直温氏	ミズヒキ他
月　京	渡辺　京子氏	スズメバチの巣
虫　窪	古正　政男氏	ヤバサミ他
平塚市	加藤　春雄氏	オヒツ
小田原市	椎野　秀吉氏	古写真他
中井町	尾上　安衛氏	看板
中井町	熊沢　市郎氏	アオリ他
大阪市	庄野　悦子氏	書簡
大磯定置漁業株式会社		大磯(定置網)模型他

Report　－大磯町郷土資料館だより－No.10
平成6年9月30日
編集発行　大磯町郷土資料館
〒255 神奈川県中郡大磯町西小磯446-1
ＴＥＬ 0463(61)4700
ＦＡＸ 0463(61)4660